

オバマ大統領の広島訪問に関して

平成 28 年 5 月 27 日

米国大統領による被爆地広島への訪問は、戦後初めてのことであり、被爆された方々をはじめ日本国民の心に寄り添う点で大きな意味がある。我が国の政府も、米国民の心に寄り添う一層の努力を行い、過去の不幸な戦争に関する両国民の更なる相互理解を進めるべきである。

日米両国は、中国と北朝鮮の核の脅威に直面しており、現状では残念ながらアメリカの核抑止力を必要としている。しかし、将来には核廃絶が実現するよう、あらゆる努力を傾けるべきである。今回、オバマ大統領が当時の悲惨な状況を知り、核兵器の非人道性を肌で感じていただくことが、その契機になることを期待したい。

おおさか維新の会
代表 松井一郎